

長門一ノ宮病院広報誌

つながり

第 10 号

日本医療機能評価機構認定病院
社団医療法人山陽会

長門一ノ宮病院

〒751-0885

山口県下関市形山みどり町17-35

TEL083-256-2011

FAX083-256-9004

<http://www.nagatoichinomiya-hp.or.jp/>

発行責任者 稲野 秀 / 2011年7月発刊



ご挨拶
理事長・院長 稲野 秀

今年は当院が昭和36年8月1日に創立して50年になります。多くの方のご支援と職員一同の努力により

この節目の年を迎えられたことを素直に喜ぶとともに感謝いたします。今の当院は住宅や商店に囲まれています。50年前はそうではありませんでした。周囲には一面の田畑が広がり、やや低くなった西側には未舗装の県道が南北方向に延びており、赤紫色のバラスが敷かれて車が走ると埃が舞い上がりたまにはお百姓さんにひかれた牛がゆっくりと歩いていきました。当時は内科をはじめ、望まればたいの診療はしておりましたので、夏にはマムシ抗毒素血清が冷蔵されていまして、私自身も目や鼻腔を洗ってもらうなどの処置をしてもらったこともあります。冬には安岡の海岸まで見渡せる側から強い風が吹き抜けていきました。上下水道も未整備で井戸を3本掘ってまかなってました。こういう厳しい環境下で理想的な医療が行えたと主張するつもりはありません。辛い症状が緩和されないまま亡くなった患者さんも、不満を述べて別れていった方もいらっしゃいました。治療がうまくいったとしても、療養環境の不備でご迷惑をかけたこともあると承知しています。このような思いを抱きしめて今後も少しずつ、診療と療養の技術を改善させるよう努めてまいります。どうぞご指導やお叱りのご意見をいただきますようお願いいたします。

病院概要

- ・診療科目 精神科・神経科・児童精神科 ・ベッド数 201床
- ・施設基準 「精神病棟入院基本料15:1」「精神療養病棟」「デイケア・ショートケア」「食事療養I(選択メニューあり)」「訪問看護」「看護補助加算30対1」「療養環境加算」「精神科作業療法」「障害児(者)リハビリテーション」「薬剤管理指導料」

患者様の権利

- ・自由に病院を選ぶことができます。・差別なく平等に治療を受けることができます。
- ・病院側の十分な説明のもと適切な治療を受けることができます。・プライバシー・治療の秘密が守られます。
- ・いかなる時も、誰でもが人格を尊重されます。
- ・医療費や公的援助制度について、わかりやすく必要な情報を知ることができます。

防災訓練

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

当院では、一昨年新病棟が完成し耐震性が向上しました。消防関係においても年2回以上の避難訓練を実施し患者様に、より安全な生活空間の提供ができるようにしております。大震災を教訓に、

山口県「福祉・医療施設防災マニュアル作成指針」を基本とした当院防災マニュアルを強化し、スタッフ一同、万が一に備え訓練を継続しております。写真は、平成23年4月の訓練の様です。

(防災担当 山根順一)



医局体制

院長 稲野秀、副院長 横地光子・稲野靖枝

診療担当医案内(平成23年5月より)

	月	火	水	木	金	土
午前 受付時間 8:00~12:00 診療時間 9:00~12:30	稲野秀 (初診・再診)	稲野靖枝 (初診・再診)	稲野秀 (再診) 横地光子 (初診・再診)	横地光子 (初診・再診)	稲野靖枝 (初診・再診)	稲野秀 (初診・再診)
午後 受付時間 13:15~16:00 診療時間 13:45~16:30	稲野秀 (初診・再診)	稲野靖枝 (初診・再診)	横地光子 (初診・再診)	横地光子 (初診・再診)		
専門外来	稲野靖枝 (児童精神・発達障害) 完全予約制					

*休診日 日曜・祝日・盆・年末年始。

*午後は会議・出張等で診察できない場合がありますので、できるだけ午前中にご来院ください。

*児童精神は予約制です。受診される場合は、お電話で予約をお取りの上ご来院ください。

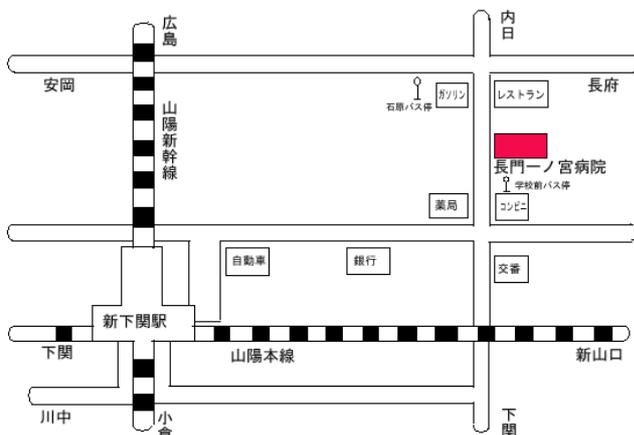
ご予約がない場合は来院されても診察できない場合があります。

*入院ご希望の場合は、事前にお問い合わせの上、できるだけ午前中に来院してください。

*午後遅い場合や空床のない場合は入院できないこともあります。

*盆休は8月14日から8月16日までです。この間の外来は休診とさせていただきます。

交通アクセス



山陽新幹線、山陽本線

・新下関駅下車新幹線東口より徒歩10分

バス サンデン交通

- ・内日線 勝山小学校前または農協会館前下車 徒歩3分
- ・長安線 石原下車 徒歩3分

広報誌編集後記

当院の50年の歴史は、かつて従事されていた先輩方の努力の歴史でもあります。我々現在の職員は、そのことを肝に銘じて、これからの病院発展のために何ができるかを考えながら、今後も精進してまいります。

(渡邊)